

平成 17 年 4 月 25 日

委員長コメント

- 1．今回の報告期間は平成 17 年 1 月 3 日から平成 17 年 4 月 3 日までの約 3 か月である。
法定報告に基づく新規 H I V 感染者報告数は 207 件（うち男性 188 件、女性 19 件。前回報告 190 件）で、前年同時期の新規 H I V 感染者報告数は 150 件であり、明らかな増加傾向であると言える。
一方、新規 A I D S 患者報告数は 79 件（うち男性 73 件、女性 6 件。前回報告 93 件）で、前年同時期の新規 A I D S 患者報告数は 69 件である。
- 2．感染経路別に見ると、新規 H I V 感染者では同性間性的接触によるものが 132 件（全 H I V 感染者報告数の約 64％）と最も多く、そのうち 131 件が日本国籍男性であった。
また、異性間性的接触による新規感染者報告数は 49 件（全 H I V 感染者報告数の約 24％、うち男性 32 件、女性 17 件）である。
一方、新規 A I D S 患者では同性間性的接触によるものが 27 件（全 A I D S 患者報告数の約 34％）、異性間性的接触によるものが 22 件（全 A I D S 患者報告数の約 28％、うち男性 20 件、女性 2 件）となっている。
なお、男性 A I D S 患者で同性間性的接触が異性間性的接触を上回りはじめたのは平成 15 年頃からである。
年齢別では、新規 H I V 感染者は 20-30 代が大多数（75.4％）を占め、新規 A I D S 患者は 30～50 代と広く分布している。
要約すると、感染者・患者とも 90％以上を男性が占め、その中でも同性間性的接触による感染が大多数を占めるという状態である。
- 3．平成 17 年 1 月から 3 月末までの保健所における H I V 抗体検査件数は 18,913 件（前年同時期 15,684 件）、相談件数が 34,231 件（前年同時期 34,634 件）であった。
- 4．平成 17 年 1 月から 3 月の献血件数（速報値）は 1,310,191 件（前年同時期 1,374,281 件）で、そのうち H I V 抗体・核酸増幅検査陽性件数は 24 件、10 万人当たりの陽性人数は 1.832 件（前年同時期 1.019 件）であった。
この数字は、感度の高い核酸増幅検査を全国的に導入した平成 11 年 10 月以降、第 1 四半期の数字としては最も高い。
- 5．この四半期における新規 H I V 感染者報告数は過去 2 番目に多く、平成 17 年 4 月 3 日までに、累積 H I V 感染者報告数及び累積 A I D S 患者報告数は合計で 1 万件を超えた。
新規 H I V 感染者報告数を感染経路別に見ると、男性同性間性的接触が過去最高の報告数となり、中でも、若年層の占める割合が大きい。以上のことは、日本国内で H I V 感染が広がりつつあることを示唆していると思料する。
国民は日本国内で H I V 感染が広がり、感染機会が増えつつあること、献血は安全な血液を供給するためのものであることなどを含めて、H I V・A I D S についての理解を深め、積極的に予防や H I V 抗体検査の早期受診に努めるべきである。都道府県等に

においても、普及啓発を推進するとともに、保健所を中心に、利用者の利便性（例えば時間帯・場所など）に配慮した検査・相談事業を一層推進して、H I V感染の早期発見による早期治療と感染拡大の抑制に努める必要がある。